令和７年度　特別活動実践・研究計画

部　員	○佐々木駿斗、石田智之、鎌田佳祐、柴田省吾、石井知徳、加賀屋綾乃

１　昨年度の成果と課題

昨年度の実践を通して、特別活動における自律した学習者の姿が見えてきた。

①　３年「だれとでも協力し合える集会をしよう」の実践では、１人１台の学習者用端末を活用した意見シートに自分の意見やその理由を入力し、自分の考えをもって学級会に臨んだ。また、事前に互いの考えをモニターの画面上で共有しながら意見や理由を確認する場面を設定した。全体交流では多様な考えが出される中、発言することが苦手な児童の「自分は反対だったけれど、ＡさんやＢさんの賛成の理由が提案理由に沿っていて納得できます」という考えに目を付け紹介する司会者の姿が見られた。さらに、一人一人の考えを基に「出された意見を比べると、…がよい」「…という意見が多いから、こんな工夫が出てきそう」など友達の考えや理由を比較し、自分の意見を再考することで、話合い活動の見通しをもち、意欲的に取り組む姿も見られた。また、単に発言するだけでなく、発言の内容をよりよくしようとする姿が多く見られた。

事前に学習者用端末を活用して意見を入力したり、意見を共通理解したりすることを通して、自分の意見を整理して述べることができたり、お互いの意見を視覚的に共有したりすることができた。学級全体の児童の考えを基に合意形成が図られた場面となった。

②　学級活動の振り返りの場面では、学級会カードに自分や友達の考えや思いを比べる活動を行い友達のために行動したことを記録したり互いのよさを伝えたりする姿が見られた。その際には、友達との関わりを自覚できる項目を加えて振り返りを行い、友達の行動のよさをペアで伝え合う場面を設定し、積み重ねてきた。そのやりとりの「ちゃんと話を聞きながら、たくさん意見も言えていたね」「賛成意見を言ったり、意見を組み合わせて解決したりして助けていたね」などの発言に触れることで、自覚していなかった自分のよさに気付くことができ、友達のために自分のよさを発揮しようとする児童が多く見られた。また、学級会カードの振り返り欄にも「友達はどう思っているのだろう」「もっと友達と関わりたいな」といった記述があり、自分から他者へと意識が向いていることが分かる。学級活動の話合いを積み重ねることで、「自分だけ」の意見や主張から、友だちと尊重し合い意見をすり合わせながら「自分たち」の思いや願いを実現しようとする姿に高まりが見られてきている。

一方で、児童が話合いを更に充実したものにするための「お試し」の活動に十分に時間を割くことが出来なかったことや、児童の思いや願いから生まれる議題の選定が不十分だったことが課題としてあげられる。自他の思いや願いを汲み、立案することや原案をよりよいものに発展させる方法について検討していきたい。

こうした成果と課題を踏まえ、特別活動部は、自律した学習者の姿を次のように捉える。また、自律した学習者が育つ授業デザインの具体的な取組を次のように設定する。

２　特別活動における自律した学習者の姿

①　手順や深まりのある話合いの進め方を理解し、自律的に話合いを進め合意形成したり、課題の解決方法について多様な意見のよさを生かして意思決定したりする姿

②　自分たちの思いや願いを実現するために学級活動を有効に活用しようとする姿

３　授業デザインの具体的な取組

○自分やグループの考えを整理・分析したり、みんなで考えを共有したりする場を設ける。

○合意形成や意思決定を支える、よさや改善点を見付ける活動を行う機会を設ける。

○自分たちの現状を把握し、話し合いたいことを募集し切実感のある議題や課題の選定を支援する。